













国語科単元デザイン			
単元名		日 時	11月21日4限
「食べ物のひみつを教えます」（光村図書）		学年組	3年1組【教室】
ひみつがいっぱい！食べ物へんしんカードを作ろう！		授業者	蔵田 優香
1 単元の目標と評価規準			
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	
比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し、使うことができる。 【(2) イ】	・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。【B(1)イ】 ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。【B(1)ウ】	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。	
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し、使っている。 【(2) イ】	・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。【B(1)イ】 ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。【B(1)ウ】	進んで内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考え、今までの学習を生かして食べ物へんしんカードを書こうとしている。	
2 単元における「パフォーマンス課題」と「期待する子どもの姿」			
【パフォーマンス課題】 身近な人に教えたいと思った食べ物のへんしんカードを書く。			成果物モデル
【期待する子どもの姿】 ・「魚が嫌いな弟に」「料理が苦手なお父さんに」等の視点から題材を選び、相手を意識して順序を工夫する姿。 ・相手を意識してカードの構成（はじめ・中・終わり）や言葉を工夫しながら、自分の思いを書こうとする姿。			
3 指導にあたって			
(1) 既習の内容		(3) 指導の工夫	
〈1年「いいこといっぱい一年生」〉 ・まとまりに分けて書く。 〈2年「おもちゃの作り方をせつめいしよう」〉 ・まとまりがはっきり分かるように書く。 ・順序がわかる言葉を使って書く。		【見方・考え方】 □教師のカードを全体で検討することで、言葉の使い方や構成を工夫できるようにする。 □カードを書いた目的を初めに言語化し、スライドに書いておくことで、伝える相手や目的を意識して書くことができるようにする。 【対話の活性化】 □スプレッドシートを用いて学級全体の進捗状況を確認したり、友達のカードを他者参照できるようにしたりして、対話の機会を増やす。 □教師のカードを全体で検討することで、伝える相手を意識して話し合ったり、自分の思いを書いたりできるようにする。 【教師の見取り】 □相手を意識して内容や構成が検討できている児童を取り上げる。 □スプレッドシートで児童の進捗状況を確認し、書き進めることができていない児童に声をかけたり、児童同士をつなげたりする。	
(2) 児童の実態			
○本やインターネットなどの情報源を適切に使い、自分の知りたいことを主体的に調べることができる。 ○調べたことを図や表にして分かりやすく分類・整理することができる。 ○内容のまとまりを意識しながら段落を分けることができる。 △伝えたいことを絞れず、必要以上に書いてしまい、文章にまとまりがなくなる児童もいる。 △段落と段落の関係や流れを把握できず、接続語の使い方が不十分な児童もいる。			

4 単元の指導と評価の計画（全8時間）

時間	学習課題（◆）と主な学習活動（○）	評価の観点【】評価規準（・）
1 2	◆題材の設定・情報の収集 ○すがたを変える食べ物について調べ、伝えたい相手を決める。 ○単元のゴールを確認し学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ひみつがいっぱい！ 食べ物へんしんカードを作ろう！ </div> ○自分が選んだ食べ物について「おいしく食べる工夫は何か」「どんな食品にすがたを変えているのか」などを本から調べる。	・（情活）【知・技】A2①a <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【知識・技能】発言・ノート ・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方理解し、使っている。 </div>
	・調べた食べ物の中から、自分の身近な人に教えたいと思ったものをカードに書くという目的を明確にする。 ・カードを書くために何をどのような順序で行うかを話し合い、児童と学習計画を作る。 ➤伝える相手を意識して食品を選ぶことができるよう、スライドに伝える相手と目的を書くようにする。 ・「おいしく食べる工夫」と「食品名」がすぐ分かるように図や表にして調べたことをまとめる。 ・情報収集がしやすいよう、教師のほうでPDFを準備しておく。	
③ 4	◆内容の検討・構成の検討 ○伝える目的と相手に合わせて、事例の順序を考える。 ○「はじめ・中・終わり」に分けて、構成シートに作り方の手順を書き始める。（特に「中」の部分）	・（情活）【思・判・表】B1③c <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【思考・判断・表現】スライド・発言 ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【主体的に学習に取り組む態度】カード・行動観察 ・進んで内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考え、今までの学習を生かして食べ物へんしんカードを書こうとしている。 </div>
	➤伝えたい相手と目的を意識して順序を考えられるようにする。 ・順序を変えることで伝わり方が変わることに気付くことができるようにする。	
5 6 7	◆考えの形成・記述・推敲 ○「はじめ・中・終わり」の組み立てに沿って、説明する文章を書く。 ○言葉の使い方や文末表現に気を付けながら文章を書く。 ○推敲チェックリストをもとに相手に伝わる文章になっているか確かめる。	・（情活）【思・判・表】B1③c <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【思考・判断・表現】スライド・発言 ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 </div>
	➤相手意識・目的意識を再度確認し、教師のモデルや児童の成果物で考える場を作ることで思考の見通しを持たせる。 ・「中」では、中心文を段落の最初に書くことや接続語で文をつなげることを確かめる。 ・「終わり」では、筆者の思いや伝える相手への呼びかけを書くことを確かめる。 ・推敲する際にはチェックリストを用いて、視点に沿って相互評価が行えるようにする。	
8	◆共有 ○文章を読み合い、感想を伝え合う。 ○学習の振り返りをする。 ➤書く活動でポイントとした説明の仕方の工夫ができたかを振り返る。 ・相手を意識して伝える経験を通し、言葉で伝えることの意義や楽しさを実感できるようにする。	
		

5. 本時の学習		
(1)ねらい ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考慮することができる。【思考力・判断力・表現力等 B(1)イ】 ・進んで内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考え、今までの学習を生かして食べ物へんしんカードを書くことができる。【学びに向かう力・人間性等】		
(2)評価規準 ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。【思考・判断・表現 B(1)イ】 ・進んで内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考え、今までの学習を生かして食べ物へんしんカードを書こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】		
(3)準備 ・クロームブック・相手チェックリスト		
(4)展開		
過程	主な学習活動 ○発問・児童の主な意識の流れ	・留意点★支援 ICT 活用の目的 評価【観点：方法】[研究の視点]
つかむ5分	1. 本時の課題を確認する。 ○前時は何をしたかな。 ・調べたことを図や表に整理したよ。 ・「中」の事例で使う写真をスライドに貼ったよ。 ○今日は何をするのかな。 ・事例の順序を工夫するよ。 く 相手や目的に合わせて事例の順序を工夫しよう 〉	・単元計画から本時の学習の見通しを児童自身が持てるようにする。
考える・深める30分	2. 全体でカードの工夫を確かめる。 ○この順序で読んだ人は「びっくり」するかな。 ①コーン缶 ②コーンスープ ③ポップコーン ④ラムネ  ・ポップコーンよりラムネの方が、びっくりすると思うな。 ・ラムネを最後にしたらいいんじゃないかな。 ・とうもろこしの形がどんどん分からなくなる順にするとびっくりしてくれそうだね。 ・友だちと話すと順序がもっと良くなるね。 ○とうもろこしが苦手な妹に「食べてみよう」と思ってもらうためにはどんな順序にするといいかな。 ・コーンスープは見た目がとうもろこしに近いから、苦手な人は嫌だと思いきやそうだな。 ・最初にコーンスープにしたらいいんじゃないかな。 ・ポップコーンやラムネはとうもろこしからできているとは思わないから、最後のほうにしたらいいと思うよ。 ・ポップコーンやラムネなら食べてみようと思いきやそうだね。 4. 本時の課題に取り組む(セレクト学習) ○自分が選んだ食品の順序を、伝える相手に合わせて工夫しよう。	・本時の課題の視点を持たせるために必要な一斉指導を行う。 [①見方] ・教師モデルを検討することで、意図的に見方を働かせる場を設定する。 ・教師モデルを全体で検討しながら、協働の目的を伝えられるようにする。 ・相手や目的によって順序を工夫することが大切であると気づくことができるようにする。 ・交流する相手を自分で選択できるように、選んだ食品と目的をスプレッドシートに示しておく。 ・セレクト学習の手がかりとして一斉指導で確認した思考の見通しと活動の見通しを板書に残しておく。 ☞協働相手をセレクト ・教師のモデルや成果物のスライドを他者参照可能にしておく。

	<p>【同じ食べ物を選んだ児童同士の対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ポテトチップス→スイートポテト→こんにゃく→たまごボーロ」の順にしたよ。 ・こんにゃくを最後にしたほうがびっくりするんじゃないかな。 ・私は、最初をスイートポテトにして分かりやすくなるようにしたよ。 <p>○順序を変えると伝わり方は変わったかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ食べ物でも順序が変わると伝わり方が違うね。 	<p>【②対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「同じ食べ物」「同じ目的」など学習ステップシートを見て、自分に合った相手を選んで対話ができるようにする。 ・対話の仕方のモデルを2パターン示しておく。
	<p>【伝える目的が似ている児童同士の対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛乳が苦手な妹に「これも牛乳からできているの?!」とびっくりしてほしくて、ホイップクリームを最後にしたよ。 ・魚が苦手な弟に「かまぼこだったら食べられるかも」と思ってほしくて、かまぼこを最後にしたよ。 <p>○二人が決めた順序に共通点はあるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦手な人には形が残っていない食品を最後にするといいかもしれないね。 <p>※児童の考えた順序の一例</p> <p>①ゆでたまご ②プリン ③マヨネーズ ④メレンゲ</p> <div data-bbox="237 1429 422 1554"></div> <div data-bbox="446 1429 588 1554"></div> <div data-bbox="620 1429 785 1554"></div> <div data-bbox="821 1429 970 1554"></div> <p>【選んだ食べ物】たまご</p> <p>【相手】たまごが大好きなお母さん</p> <p>【目的】これもたまごなのかってびっくりさせたい</p> <p>【〇〇じゅん】たまごの色や味が分からなくなる順</p> <p>お母さんをびっくりさせたくてこの順番にしました。マヨネーズとメレンゲのじゅん番をまよったけど、友達がメレンゲの方が分からないって言うてくれたから、このじゅん番に決めました。</p>	<p>・伝える相手に基づいた順序の根拠を深められるようにする。</p> <p>【③見取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習ステップシートや相手チェックリストを活用しながら、学習の進捗状況を見取ることで、児童同士をつないだり、他者参照を効果的に促したりする。 ・順序が決まった児童から接続語を考えて、スライドに書いていくよう促す。 <p>・伝える相手に沿って順序を工夫できている児童を紹介する。</p> <p>・(情活)【思考・判断・表現】 B I ③c 表現方法を相手に合わせて選択し、相手や目的に応じ、自他の情報を組み合わせて適切に表現する。</p> <div data-bbox="1023 1630 1414 1832" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現】 スライド・発言 「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。</p> </div> <p>★教師と対話したり、適切な協働相手と繋いだりすることで考えを持てるようにする。</p>

振り返る 10分	<p>5. 本時の学習の振り返りをする</p> <p>○今日はどのように順序を工夫したかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・びっくりしてもらうために、元の形が残っていないものを最後にしたよ。 ・料理が苦手なお父さんが「作ってみよう」と思えるように、時間がかからないものを最初にしたよ。 	<div> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>カード・行動観察</p> <p>進んで内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考え、今までの学習を生かして食べ物へんしんカードを書こうとしている。</p> </div> <p>・ふりかえりを書くことで、自分の学びを自覚し、深い学びに繋がられるようにする。</p>
-------------	---	--

【資料のリンク】

https://drive.google.com/drive/folders/12eAc5popJeCKTAi8Wr2ob1ZtFLhzBOdW?usp=drive_link